

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する	今年度の 重点目標	職業人としての基礎的な力の育成
			地域社会とつながりながら生きる力の育成
			働きやすい職場、一人一人が成長できる組織づくり

年 度 当 初					評 価 結 果 (3) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
職業人としての 基礎的な力の育成	○授業改善 ～「協働性」を高める～	○計画的な教科グループでの話し合いや授業公開、および授業実践シートの作成等を行うことで、教職員の授業改善への意識が高まってきた。 ○近年の人事異動により様々なキャリアの教職員が在籍しており、教職員の専門性の技術の伝達が求められる。	○生徒の「考える」姿が見られるように、教職員が日々の授業を振り返り、授業改善に取り組んでいる。	○教科グループで授業づくりの研究会を設定し、授業展開や重点事項等について教職員で共有する。 ○外部講師を招聘し、協働性を高めるための手立てや活動の工夫についての研修会を行う。 ○授業研究会を行い、授業を振り返り、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組み、教職員で成果と課題について共有する。(就労準備性チェックリストの実施)	○外部講師を招聘し、「協働性を高めるための手立てや活動の工夫」をテーマとした校内研修会を行ったり、研究グループごとに授業研究会を実施したりしたことで、教職員の授業改善への意識が高まった。職員アンケートではほぼ9割の教職員が肯定的な回答をしている。	A	○今年度の成果と課題を基に方向性を検討し、引き続き「考える力」をつける授業づくりに取り組む。 ○就労準備性チェックリストの集計と分析を行い、次年度の指導の重点項目を絞る。
	○職業教育・進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○専門教科の中心であった教職員の多くが異動したことで、専門教科担当の教職員の専門性や指導力、就労に対する意識は様々である。	○専門教科の各コースの教職員が「一般就労」という目標を持ち、必要な知識や技術を身につけ、生徒の指導にあたっている。	○指導方針や指導方法等について共有できるよう工夫したコース会を実施する。 ○研究・研修担当と連携した授業改善に取り組んだり、進路部と情報共有して研修を行ったりする。	○年間を通して、学科部内、コース内での情報共有を行った。コースチーフを中心としたコース運営を行い、授業づくりや授業改善、指導内容の共通理解等に努めた。コースによるが、異学年合同のチューターの学習が、教職員の技術の継承に効果的であった。 ○教員アンケートでの「一般就労」という目標を全職員が共有し、指導に当たっているとの質問に対して、8割近い肯定的な回答があった。	B	○学科部として進路部等の他分掌との連携を図るとともに、教職員が「一般就労」という目標と「技術の継承」を意識し、日々の業務に継続して取り組んでいく。 ○コース内での人材育成をねらい、コースチーフを中心としたコース運営を行うように計画する。
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	○(1年生)自分の良さと課題を理解している。 ○(2年生)自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 ○(3年生)自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団や学科部と進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を高めるために、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。	○現場実習では、学年団や学科の教科担当者と進路部が連携することで生徒の希望や適性に合った企業とのマッチングができています。 ○生徒、職員のニーズを受けて行事や研修を行っており、意識の向上に繋がった。	A	○引き続き、現場実習と授業のつながりを意識して、学科の教科担当者や学年団と進路部との連携に努める。 ○生徒、職員の進路指導に対する意識を更に向上させるために、引き続き行事や研修の内容を深めてキャリア教育の充実をはかる。
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○夜、スマホを利用することによって、就寝時刻が遅くなる生徒がいる。 ○睡眠時間の不足や人間関係の悩み等から生活リズムが崩れたり、学習に向かえなかったりする生徒もいる。	○生活の自己管理ができ、睡眠時間の確保ができています。	○睡眠等に関するアンケートをとり、指導活用していく。 ○「我が家のルール」を活用したり、個人懇談等を通じたりしながら保護者と情報共有をして指導していく。	○普通教科と連携し睡眠に関する校内アンケートを取り、結果を踏まえて学習を行った。他者と比較して自分の睡眠状況がどうなのかを知ったり、睡眠が生活に及ぼす影響について学んだりしたことで改善を図ろうとする発言があった。 ○各学年通信でアンケートの考察や学習の様子について掲載し、保護者への発信ができた。	B	○睡眠が学習に及ぼす影響を知り、そこから夜のスマホ利用の改善まで至ったかどうか確認できていないので、生活リズムが整った様子が見られるまで継続的な学習が必要である。
		○昨年度は、挨拶や返事、言葉遣いについて、8～9割の生徒が意識して取り組んでいた。継続して指導し、定着につなげていく。 ○生徒は自分の課題に意識して取り組んでいる。将来の進路実現に向けた課題解決策として、周りの生徒と協力したり、教師による指導・支援を受け入れることが必要である。	○生徒同士が互いに認め合い・支え合い・励まし合いをすることを通して、自分の目標に取り組んだり、行動の課題の改善することに努めたりする。	○学年集会で生徒が主体的に活動したり、特別活動の時間でグループワークなどの生徒同士での活動を設ける。 ○基本的生活習慣や規律、学習態度など、学級内で振り返る機会を設定する。 ○「できる」「わかる」授業の実践を通して、生徒同士が伝え合ったり教え合ったりする授業づくりを行う。 ○生徒の活躍やがんばりを、学年通信や学校ホームページなどで紹介する。	○生徒アンケートを行ったところ、全体の95%が本校で学んだことでわかるようになったことやできるようになったことが増えたと回答している。特に専門教科で達成感がある。 ○生徒同士が関わり合いながら目標に向かって取り組むことを通して、他者の意見や助言を聞くことや、授業で互いに勉強を教え合ったり話し合ったり声をかけ合ったりする行動が見られるようになった。9割以上の生徒が意識して取り組んでいるとアンケートでも回答している。 ○教職員アンケートでは9割が肯定的評価及び生徒の変容を認めている。	A	○今年度取り組んだ協働性の育成を継続的に実施しながら、引き続き①生徒自身が「できた・わかった」が実感できること、②「他者の意見を聞いて自分の考えを深めること、③自分の気持ちや考えを、適切な言動で示す・相手に伝えること」に取り組み、将来の社会性につなげていく。
		○生徒の災害や防災に関する意識や判断力は高くなく、その向上についての取り組みが求められる。	○年度当初に比べて災害や防災に関して意識することが増えている。	○防災教育講演会や避難訓練の中で防災意識向上のための取り組みを行う。 ○「デジ防災」を活用した学習活動を実施する。	○防災教育講演会や避難訓練、生徒の被災地視察報告会等の活動を通して防災意識の高まりが見られた。	B	○津波を想定した3回目の避難訓練を3月に実施予定。実践的な訓練で防災意識の一層の向上を図りたい。
		○昨年度から行っている「認め合いの木」の取り組みで、場面に応じて自主的により良い行動をとることができる舎生も何名が見られるようになってきているが、全体的な数は多くない。	○寄宿舎の生活の中で、周囲の状況を見ながら、自主的に行動している。	○「認め合いの木」の取り組みを通して、より良い行動を全体に周知することで、舎生自身がいろいろな場面でより良い行動ができるように促し、その定着を図る。	○舎生の自主的な行動が数多くあり、「認め合いの木」のスペースがなくなるぐらい多くの花(記入用紙)が咲いている。認め合いの木に書いてもらうためではなく、他の人を思いやっての行動が増えた。	A	○舎生同士の関わりあいの中の良い行動の場面を捉えて声かけを行い、行動についての気づきを促す。さらに舎生が自主的な行動をしていけるように、他の方策を工夫していく。

